



抜 群のチームプレーで勝ち取った全国への切符 東海南中男子ホッケー部が全国大会に出場

8月24日、「第27回 関東中学生ホッケー選手権大会」(男子の部)で4位に入賞し、8月19日から22日にかけて、宮城県で開催された「JOCジュニアオリンピックカップ 第52回 全日本中学生ホッケー選手権大会」に出場した、東海南中学校男子ホッケー部の皆さんが村長へ報告に訪れました。これまでの部活動や全国大会を振り返る中、部長の中村洸斗さん(東海南中3年)は「関東大会を突破し全国大会に進めたことで、この仲間たちと長く部活に励めたことがうれしかったです」と話しました。



平 和についての理解を深めました 令和4年度「第10回 東海村小・中学校平和大使派遣」

8月5日～7日、令和4年度 第10回 東海村小・中学校平和大使として、村内各校の児童・生徒15人(小学生9人、中学生6人)が広島を訪問しました。今年は派遣10周年の節目ということで、村長や教育長が同行。派遣期間中は各校で願いを込めて作成した折り鶴を奉納したり、原爆ドームや平和記念資料館を訪れたりしました。被爆地を実際に訪れ、「二度と戦争で苦しむ人がいない“平和が当たり前の世界”になるよう、平和の大切さを伝えていきたいです」と話した皆さん。平和大使としての活動を通して、それぞれが感じたことや学んだことを、今後の学習等に生かしてほしいです。

【写真】(後列左から)橋本東海消防署長、打越消防本部次長、高木消防長、伴教育長、小林東海中学校長(前列左から)富永さん、照沼さん



中 学生2人が屋外で倒れていた高齢女性を救助 「消防協力者表彰式」

7月25日、東海消防署で「消防協力者表彰式」が行われ、富永怜さんと照沼亮太さん(共に東海中2年)が表彰されました。2人は6月22日午後4時ごろ、東海1丁目地内で倒れていた高齢の女性を発見。近所の方に119番通報を依頼後その場で待機し、到着した救急隊を現場まで案内しました。女性は気温・湿度の高い中で約3時間も倒れており、発見が遅れていれば命の危険がありました。彼らの発見と適切な対応が早期搬送につながった功績は多大であり、今回の表彰に至りました。

広島訪問の様子▼



報告会の様子▼



8月25日、歴史と未来の交流館で、「Peace Messengers Forum in TOKAI」と題し、平和大使としての体験報告会を開催しました。「平和を願う気持ちを強く持つことが、平和な世界への第一歩だと思います」と、今回の体験を振り返りながら話した大使たち。大使たちの報告に、真剣な眼差しで耳を傾ける参加者の姿が見られました。

▼インターンシップで学んだことを生かし、自分たちで考えたデジタルディバイド対策の新規事業を、地域戦略課の職員へ説明する様子



村 職員として必要な資質やスキルを感じてもらうために 令和4年度「東海村インターンシップ実習」

村では、村職員の仕事の魅力ややりがいを感じてもらうため、学生の夏季休業期間等を利用し、インターンシップ生の受け入れを行っています。3大学1専門学校1高校から計22人の受け入れする予定の中、8月15日から19日にかけて、地域戦略課の仕事を体験した三次隼さんは「住民のことを考えて仕事をする大切さを改めて学ぶことができました」と話しました。村ではこれからもさまざまな取り組みを通して、この村で働きたい・働いてみたいと考える人材の育成等を図っていきます。



東 海村の夜空を彩る約2,000発の花火 第44回「東海まつり」花火大会

8月11日、阿漕ヶ浦公園を会場に、3年ぶりとなる東海まつり花火大会が開催されました。当日は子どもから年配の方まで、たくさんの来場者が会場を訪れ、真夏の夜空に美しく輝く打ち上げ花火を見上げました。次々と打ち上がる花火に、「久しぶりの花火で、これまでで一番美しく感じました」などの声が聞かれました。多くの皆さんの心に残った今年の花火大会。来年こそは、「東海まつり」のイベントでのにぎわいが戻ってきますように――。

「保育」という おしごと

— 保育者からのメッセージ —



一緒に楽しむことを大切に、
日々保育しています

くさんあります。うれしいときは一緒に喜び、悔しいときには一緒に悔しがり、困ったことがあるときは一緒に悩み、子どもたちに共感することが大切だと私は思います。私自身も自分では気付かなかったことに気付いたり、自分でも知らなかった自分に出会ったり、子どもたちから学ぶことがたくさんあります。これからも「共感」や「心のつながり」を大切にできる保育者でいたいのです。

川嶋里歩 教諭

私が幼稚園教諭になろうと決めたのは高校3年生の時。進路を考えたときに、ふと思いついたのは幼稚園のときの先生でした。いつも優しく、表情豊かで明るかった先生。私も漠然とそんな人になりたいと思い、幼稚園教諭になろうと決めました。現在幼稚園教諭になって3年目。そのときの先生のようになれているかは分かりませんが、生まれて初めて社会に出て、初めは不安そうなお子様を送るようになり、笑顔で「せんせい」と呼んでくれたときなど、心が温かくなり、この仕事に就いて本当に良かったと実感します。

1年目の時、子どもたちとうまく

信頼関係が築けていない気がして悩んだ時期がありました。そんなとき先輩の保育を見ると、とにかく子どもと楽しみながら保育をしていることに気が付きました。私はクラスをうまく回すことばかり考えてしまいがち、一緒に楽しむことを忘れていたのです。それから、私は「楽しむ」ということを一番に保育をするようになりました。心から一緒に楽しむことが子どもたちの安心感や満足感につながり、信頼関係が生まれるのだと思います。

毎日、思い切り笑ったり泣いたりいろいろなことを感じながら生活する子どもたちと一緒にいると、とても楽しく、心が動かされる瞬間がたくさんあります。うれしいとき